

4 ヨコバイ（サカキ害虫）の発生状況の調査

（県単：R1（2019）～）

多良 勇太

1 はじめに

近年、県内のサカキ生産地で葉に白点が無数に生じる被害が発生している。捕獲された害虫の同定を九州大学に依頼したところ、原因は他県でも被害が発生しているオビヒメヨコバイ属の新種と同定された（以下、ヨコバイとする）。なお、このヨコバイは和名をサカキブチヒメヨコバイと命名された（紙谷ら 2020）。

白点が発生したサカキは商品価値が低下することから、適切な防除が必要となる。ヨコバイの生態や薬剤試験については他県において既報の成果があるものの、佐賀県における被害の実態を把握することで効果的な防除に寄与することを目的として、県内の被害状況を調査した。

2 調査方法

試験地（詳細を表-1に示す）で葉の被害の進行状況の調査を行った。前年度とは異なる立木10本を選定し、それぞれ約0.5 m高、約1.0 m高、約1.5m高の枝を1つずつ選び、葉の数とその内被害にあった葉数を調査した。なお、白点が1点以上ある葉は被害葉とし、令和元年に展開した葉（以下、2年葉とする）と令和2年に展開した葉（以下、新葉とする）は区別した。また、調査対象の枝から枝先側と幹側で1枚ずつ選び、葉の被害の進行具合を被害度として被害度0～5の6段階で評価した（表-2）。

3 結果及び考察

図-1に2年葉の被害率の推移を、図-2に新葉の被害率の推移を示す。被害率は被害葉数の合計を調査対象葉数の合計で除したものとした。2年葉については、4月調査時から約80%以上の被害率だった。新葉については、前年同様に6月から被害が発生し始め、継続的に被害率が上昇していった。

図-3に被害度の推移を示す。枝先の葉よりも幹側の方が、進行が早い傾向が見られた。

引用文献

紙谷聡志・大原直通・林正美（2020）：北部九州におけるサカキブチヒメヨコバイ，PULLEX九州・沖縄昆虫研究会会報 No.99：pp815-816

表-1 試験対象詳細

試験地	佐賀県基山町	枝高	調査対象枝数	調査葉数合計	
標高	約170m	2年葉	0.5	8	54
栽培環境	ヒノキ人工林内		1.0	10	81
調査対象木	10本		1.5	9	67
平均樹高	3.5m	新葉	0.5	7	30
平均胸高直径	3.6cm		1.0	10	109
			1.5	9	103

表-2 葉の被害度

被害度	被害の進行具合
被害度 0	葉に白点被害が0
被害度 1	葉に白点被害が1点以上 目算で10点以下
被害度 2	葉に白点被害が数か所あるものの、葉の一部にとどまっている
被害度 3	まばらではあるが葉の大部分に白点被害が広がっている
被害度 4	葉のほぼ全体に白点被害が広がっている または、葉の一部であるが白斑密度が高い
被害度 5	葉のほぼ全体に白点被害が広がり、総じて白点密度が高い

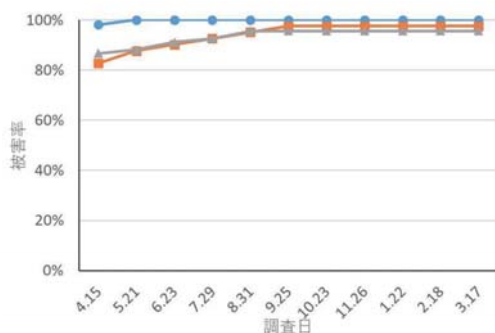


図-1 2年葉の被害率の推移

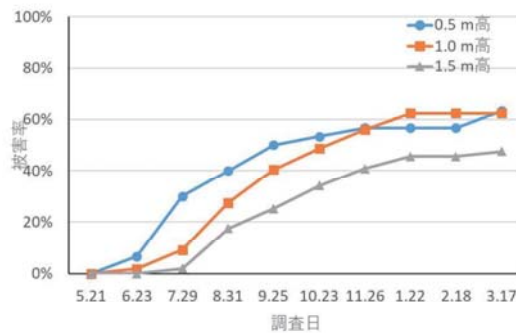


図-2 新葉の被害率の推移

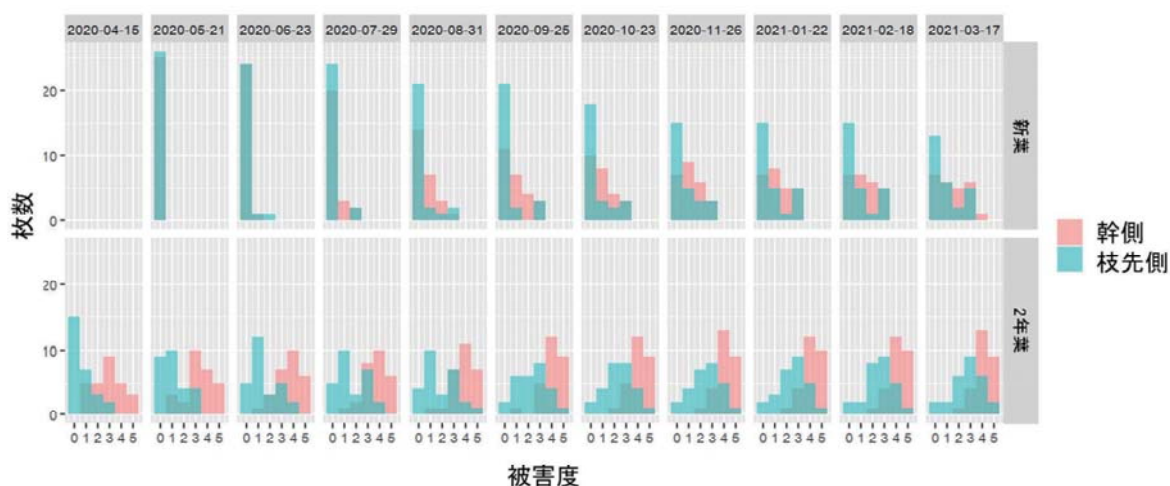


図-3 葉の被害度の推移